

久米賞 佳作 受賞作品

## わた毛

郡山市立郡山第三中学校

### わた毛

しゃがんで見ていた  
タンポポのわた毛

一人で旅立つってどんな気持ちか  
不安なのか  
怖くないか  
僕は、目の前の受験とか将来のこととか  
不安ばかり

一陣の風が吹いて  
わた毛が飛んでいった。  
青空を飛んでいくわた毛を見ていたら  
なんだか自分の迷いがあほらしくなったよ

時が満ちて  
旅立ちの時がちゃんと来る  
誰に言われるまもなく

僕は立ち上がって  
がんばれよーっと  
わた毛に向って  
息を吹いた。

### 蛞蝓

アリはあんなに速く動いて  
良いことはあるのか  
行くべき道をゆっくり決めるのも良い  
トンボは常に前へ前へ立ち止まらない  
時には自分の進んできた道を振り返ってもいいかも

蛞蝓のろのろ  
回り道したり寄り道したり  
けれどもしつかり進み  
進んだ軌跡をキラリと光らせる  
僕も常に常にマイペースだけれど  
けれどもちゃんと  
自分自身の道を輝かせたい

## 百足

シヤカ シヤカ シヤカ  
アスファルトの割れ目  
庭の隅

日なただつて百足は進む

あつ危ない

踏まれそうになつても進む

気をつけて

岩をのりこえ進む

時には家の壁だつて登つて進む

何があつても前へ前へ

後ろに決つて下がらない

これからも進む

僕は百足にちよつと憧れる

## 杉

まっすぐと育っている杉

しかしそれは自力ではない

誰かが一生懸命手をかけてくれるから

まっすぐ育つ

そのお陰か、

時には動物の傘となり

虫や鳥などの住みかとなり

森を守る

自分もまた

そんな杉のようでありたい

## ススキ

ススキは野原で静かに揺れている

晴れの日には穂が輝き

雨や風が強くてもただただ揺れている

台風がきたつて折れない

強い芯

むしりとられても

強く根を張っている

雨上がり

月に照らされ

濡れた穂先がはね上がる

ススキはキラキラと輝く

(指導教諭／柳 沼 智 恵)

### 《作品の意図》

不安なことが多いこの時期に、ほかの生き物から学ぶ生き方、目指し

たい自分について詩にした。

1. わた毛
2. ナメクジ
3. 百足
4. スギ
5. ススキ

### 《作品の寸評》

不安なことが多い現代、そして中三という多感な時期に、自然界の生き物、植物を題材に、それから学ぶ生き方、目指したい自分を五篇の詩によって表現している。

選んだ生き物は、蛞蝓、そして百足と、普段脚光を浴びることのないものたちではあるが、あえてこの時期だからこそ、それらのものたちに温かいまなざしを注いだであろう筆者の着眼点が、個性的でおもしろい。「蛞蝓」では、アリやトンボと「蛞蝓」を対比して描き、ゆっくりと進むことや、進むだけでなくふり返ることを肯定する。そして、蛞蝓の進んだ軌跡を「キラリと」光らせる。また、煙たがられる存在、百足の、どんな障害があっても進もうとする姿に、生き方の方向性のヒントを得る。同様に、各々の植物の特性をとらえ素直に畏敬の念を持って自分と重ね、そうありたいと願う筆者の、まっすぐで真摯な姿勢が伺える。特に作品名となっている「わた毛」では、今不安だらけの自分を認めつつも、タンポポのわた毛の旅立ちを通して、自分の迷いを吹き飛ばすかのように「時が満ちて、旅立ちの時が」自分にも来ると悟り、独り立ちしようとする。自分の心情を、わた毛と重ねた秀作である。

(審査員／吉井美香)